

新しい時代を象徴していた女性の美術家は、なぜ歴史から姿を消してしまったのか。 「アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦」

2025 年 12 月 東京国立近代美術館で開催

東京国立近代美術館(MOMAT、東京・竹橋)では、展覧会「アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦」(主催:東京国立近代美術館、朝日新聞社)を 2025 年 12 月 16 日(火)~2026 年 2 月 8 日(日)に開催します。

戦後に注目を浴びながらも、女性の美術家が見落とされてきた美術の歴史をめぐって、14 名の作家・約 120 点の作品を紹介する展覧会です。

新しい時代を象徴していた女性の美術家は、なぜ歴史から姿を消してしまったのか。

1950 年代から 60 年代の日本の女性美術家による創作を「アンチ・アクション」というキーワードから見直します。当時、日本では短期間ながら女性美術家が前衛美術の領域で大きな注目を集めました。これを後押ししたのは、海外から流入した抽象芸術運動「アンフォルメル」と、それに応じる批評言説でした。しかし、次いで「アクション・ペインティング」という様式概念が導入されると、女性美術家たちは如実に批評対象から外されてゆきます。豪快さや力強さといった男性性と親密な「アクション」の概念に男性批評家たちが反応し、伝統的なジェンダー秩序の揺り戻しが生じたのです。本展では『アンチ・アクション』(中嶋泉[本展学術協力者]著、2019 年)のジェンダー研究の観点を足がかりに、草間彌生、田中敦子、福島秀子ら 14 名の作品およそ 120 点を紹介します。「アクション」の時代に別のかたちで応答した「彼女たち」の独自の挑戦の軌跡にご注目ください。



広報画像 1

■出品作家

あか な

赤穴桂子(1924-98)、芥川(間所)紗織(1924-66)、榎本和子(1930-)、
江見絹子(1923-2015)、草間彌生(1929-)、白髪富士子(1928-2015)、
多田美波(1924-2014)、田中敦子(1932-2005)、田中田鶴子(1913-2015)、
田部光子(1933-2024)、福島秀子(1927-1997)、宮脇愛子(1929-2014)、
毛利眞美(1926-2022)、山崎つる子(1925-2019)

■見どころ

1 最新の研究に基づく歴史の見直し

女性美術家の再評価が進む近年、本展では『アンチ・アクションー日本戦後絵画と女性画家』（ブリュッケ、2019年、第42回サントリー学芸賞受賞／『増補改訂 アンチ・アクションー日本戦後絵画と女性の画家』筑摩書房、2025年）の著者・中嶋泉氏の全面的な協力により、ジェンダー研究の観点から日本の戦後美術史に新たな光を当てます。本展カタログには、同研究の第一人者であるイギリスの美術史家グリゼルダ・ポロック氏のインタビューも収載します。

2 初公開作品

関係者のご協力と本展のための綿密な調査により、赤穴桂子、多田美波、宮脇愛子らの、これまで紹介されていなかった初期作品や、未発表作品を展示します。各作家たちの知られざる創作と、新たな魅力に出会える貴重な機会です。

3 充実した情報

「アンチ・アクション」のコンセプトを一望できる年表を掲示するとともに、本展に関わる様々なトピックを紹介するガイドを会場で配布。わかりやすく、多面的に、作家たちの活動や時代背景などを知ることができます。

4 ダイナミックな展示

ライトを用いた立体作品や天井高に迫る3.3mの絵画など、新たな時代に躍り出た作家たちのダイナミックな作品が一堂に会します。時代を共有する14名の作品が有機的につながる空間を体験できます。

■作家のこぼれ

(…) 猫も杓子も絵具をぶついたり、たらしたり、盛り上げたりのアナフォルメル旋風が吹きまくって、あたかも、へこんだり、でっぴったりのどろどろの絵でなければ時代遅れのようにいわれていました。いくらそれがフランスの新しい傾向とはいえ、女の子のヘアスタイルではあるまいし、右にならえで、同じ絵を描けたものではありませんし、日本の画壇の浅薄さに、がっかりしていました。

(芥川(間所)紗織)「私のアメリカ留学記」『美術手帖』1963年2月

アクション・ペインティングのメッカ、テンス・ストリートに全盛期に住んで、わたしは彼らの時代の波にのって、アクション・ペインティングをやったわけではない。その只中に立って、その正反対の、アクション・ペインティングの否定をただちにやったわけ。

(草間彌生)谷川渥「増殖の幻魔—彼女はいかにして時代を駆け抜けたか」『美術手帖』1993年6月

(…) 現代の「世界」に生きるものは、単に人間的であるものよりも、むしろ無機質化されたものとの、直接的な触れ合いによって、新鮮なより強い感動を受けるのではないのでしょうか。

(福島秀子)「未知のものへの探求」『美術批評』1957年1月



北代省三《福島秀子》1956年



宮脇愛子 中野の板金工場にて
(撮影：中野英伴)1966年



白髪富士子 制作風景
1960年頃

■出品作品



山崎つる子《作品》1964年
芦屋市立美術館蔵 ©Estate of Tsuruko Yamazaki courtesy of LADS Gallery, Osaka and Take Ninagawa, Tokyo [広報画像 2](#)



宮脇愛子《作品》
1967年 撮影:中川周
[広報画像 3](#)



赤穴桂子《スペースに於ける物体》
1958年 個人蔵
[広報画像 4](#)



芥川(間所)紗織《スフィンクス》
1964年 東京国立近代美術館蔵
[広報画像 5](#)



榎本和子《断面(Ⅰ)》
1951年 板橋区立美術館蔵
[広報画像 6](#)



江見絹子《空間の祝祭》
1963年 個人蔵
[広報画像 7](#)



白髪富士子《作品 No.1》
1961年 高松市美術館蔵
[広報画像 8](#)



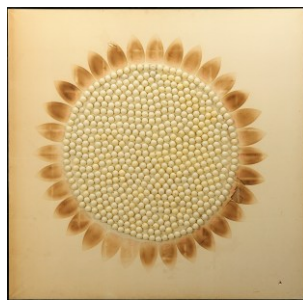
多田美波《周波数 37303055MC》
1963年 多田美波研究所蔵 撮影:中川周
[広報画像 9](#)



田中敦子《地獄門》
1965-69年 国立国際美術館蔵 ©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
[広報画像 10](#)



田中田鶴子《無》
1961年頃 奈良県立美術館蔵
[広報画像 11](#)



田部光子《作品》
1962年 福岡市美術館蔵
[広報画像 12](#)



福島秀子《ホワイトノイズ》
1959年 栃木県立美術館蔵
[広報画像 13](#)



毛利真美《裸婦(B)》
1957年 東京国立近代美術館蔵
[広報画像 14](#)

■巡回情報

豊田市美術館 | 2025 年 10 月 4 日～11 月 30 日
兵庫県立美術館 | 2026 年 2 月 28 日～5 月 6 日 (予定)

■イベント

開催記念トーク

講師 | 中嶋泉氏(本展学術協力、大阪大学大学院文学研究科准教授)

日時 | 2025 年 12 月 20 日(土)14:00～15:30 (開場 13:30)

会場 | 東京国立近代美術館 地下 1 階講堂

定員 | 140 名(先着順)、無料

※その他のイベントにつきましては、詳細が決まり次第、当館ウェブサイト等でお知らせいたします。

■開催概要

展覧会名 | アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦

英語名称 | Anti-Action: Artist-Women's Challenges and Responses in Postwar Japan

会期 | 2025 年 12 月 16 日(火)～2026 年 2 月 8 日(日)

会場 | 東京国立近代美術館 1F 企画展ギャラリー

休館日 | 月曜日(ただし 1 月 12 日は開館)、

年末年始(12 月 28 日～1 月 1 日)、1 月 13 日

開館時間 | 10:00～17:00(金曜・土曜は 10:00～20:00)

観覧料 | 一般 2,000 円(1,800 円)大学生 1,200 円(1,000 円)

東京国立近代美術館(当日券)、公式チケットサイト(e-tix)にて販売。

*いずれも消費税込。

*()内は 20 名以上の団体料金。

*高校生以下および 18 歳未満、障害者手帳をご提示の方とその付添者(1 名)は無料。

それぞれ入館の際、学生証等の年齢のわかるもの、障害者手帳等をご提示ください。

*本展の観覧料で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMAT コレクション」(4-2F)もご覧いただけます。

主催 | 東京国立近代美術館、朝日新聞社

お問合せ | 050-5541-8600(ハローダイヤル)

展覧会サイト | <https://www.momat.go.jp/exhibitions/566>



■関連書誌



中嶋泉『増補改訂 アンチ・アクション—日本戦後絵画と女性の画家』

筑摩書房(ちくま学芸文庫)

・定価 1,870 円(税込)

・2025 年 9 月 12 日発売

報道関連のお問合せ先

「アンチ・アクション展」広報事務局(ユース・プランニング センター内) 担当 | 片山・渡邊・池袋

〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町 9-8 KN 渋谷 3 ビル 4F

電話 | 03-6821-8466 FAX | 03-6821-8869 E-mail | antiaction@ypcpr.com



「アンチ・アクション 彼女たち、それぞれの応答と挑戦」 広報画像申請用紙

FAX : 03-6821-8869 E-mail : antiaction@ypcpr.com

本展の作品画像を、広報素材として提供いたします。以下に必要事項をご記入のうえご返信ください。
画像（JPEG）をメールで送信いたします。

<画像使用に際しての注意>

- 本展広報目的での使用に限ります。使用可能期間は本展会期終了までとなります。
- 展覧会名、会期、会場名ほか画像クレジット（リスト参照）を必ず掲載してください。
- 画像は全図で使用してください。文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません。
- 本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はその都度申請くださいますようお願いいたします。
- 基本情報と画像使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録テープを、本展広報事務局へ1部お送り願います。
- 画像使用後は、データの破棄をお願いいたします。

■ 広報画像（ご希望の画像にチェックを入れてください。）

✓	No.	ご掲載時に必要なクレジット表記 ※技法、素材、サイズは省略可能です。
☐	1	ポスター ※クレジット不要
☐	2	山崎つる子《作品》 1964年 ビニール塗料・綿布、板 183.0×137.5cm 芦屋市立美術博物館蔵 ©Estate of Tsuruko Yamazaki courtesy of LADS Gallery, Osaka and Take Ninagawa, Tokyo
☐	3	宮脇愛子《作品》 1967年 真鍮 47.5×49.5×12.0cm 撮影：中川周
☐	4	赤穴桂子《スペースに於ける物体》 1958年 油彩・カンヴァス 100.0×65.0cm 個人蔵
☐	5	芥川（間所）紗織《スフィンクス》 1964年 油彩・カンヴァス 130.0×162.0cm 東京国立近代美術館蔵
☐	6	榎本和子《断面（I）》 1951年 油彩・カンヴァス 116.5×91.0cm 板橋区立美術館蔵
☐	7	江見絹子《空間の祝祭》 1963年 油彩・カンヴァス 161.9×112.3cm 個人蔵
☐	8	白髪富士子《作品 No.1》 1961年 油彩、和紙、ガラス・カンヴァス 181.5×245.0cm 高松市美術館蔵
☐	9	多田美波《周波数 37303055MC》 1963年 アルミニウム 200.0×300.0×50.0cm 多田美波研究所蔵 撮影：中川周
☐	10	田中敦子《地獄門》 1965-69年 ビニール塗料、アクリル・カンヴァス 331.5×245.5cm 国立国際美術館蔵 ©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association ※WEB掲載はコピーガード必須となります
☐	11	田中田鶴子《無》 1961年頃 油彩・カンヴァス 102.3×134.3cm 奈良県立美術館蔵
☐	12	田部光子《作品》 1962年 ピンポン玉・紙（襖） 170.0×174.6cm 福岡市美術館蔵
☐	13	福島秀子《ホワイトノイズ》 1959年 油彩・カンヴァス 130.5×92.0cm 栃木県立美術館蔵
☐	14	毛利真美《裸婦（B）》 1957年 油彩・カンヴァス 130.0×89.0cm 東京国立近代美術館蔵

■貴媒体についてお知らせください。

貴社名：			
媒体名：	掲載コーナー、特集名（ ）		
※WEB掲載を予定している場合はチェックをお願いします。		コピーガード対応	可 ・ 不可
掲載月号：	月	日	発売（ ）号 / 発行部数 部
ご担当者名：			E-mail：
連絡先：	電話：	FAX：	
チケット希望：	読者プレゼントとして5組10名分を		☐ 希望する ☐ 希望しない
チケット送付先：	〒		

報道関係の方からの本件に関するお問い合わせ先
「アンチ・アクション展」広報事務局（ユース・プランニングセンター内）担当 | 片山・渡邊・池袋
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN 渋谷3ビル 4F
電話 | 03-6821-8466 FAX | 03-6821-8869 E-mail | antiaction@ypcpr.com